

コリント
第一
⑥

「すでにと
いまだにの境で」

コリント人への手紙 I 6章 民事裁判の是非 性的罪

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 信仰者同士の訴訟 6章1～11節
- II. 性的放縦 6章12～20節
- III. まとめと適用

信者のすべてにすでに起こった
位置的真理を確認しよう

キーワードは
位置的真理

アクロコリント



コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。
神殿娼婦の存在も。偶像崇拝が蔓延。



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24





I. 信仰者同士の訴訟

Iコリント6章1～11節

【訴える人】 1コリント6:1~2

あなたがたのうちには、仲間と争いを起こしたら、それを聖徒たちに訴えずに、あえて、正しくない人たち*に訴える人がいるのですか。

*世の人々。一般の法廷。民事訴訟は、人々が集うアゴラ(広場)で行われていた。

■分派で分断し対立が生じていたコリント教会。個々人の間でも争いがあり、アゴラで公衆の面前で訴えがなされることすら起こっていた。



【大から小の議論】 | コリント6:2~3

聖徒たちが世界をさばくようになる*ことを、あなたがたは知らないのですか(反語)。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。

あなたがたは知らないのですか。私たちは御使いたちをさばくようになりませう*。それなら、日常の事柄は言うまでもないではありませんか。

*千年王国では、携挙された教会時代の聖徒たちがメシアと共に統治する。(黙20:4)

■大から小の議論。典型的なユダヤ的表現方法。



位置的真理



終末論の基本は
コリントでも



【恥を知れ】 | コリント6:4~6

それなのに、日常の事柄で争いが起こると、教会の中で軽んじられている人たちを裁判官に選ぶのですか。

私は、**あなたがたを恥じ入らせるために**、こう言っているのです。あなたがたの中には、兄弟の間を仲裁することができる賢い人が、一人もいないのですか。

それで兄弟が兄弟を告訴し、しかも、それを信者でない人たちの前でするのですか。

- 討論が根付いた文化で、相互の訴えも一般的だった。
- パウロの言葉に、長老たちは、管理責任を問われ、当人たちは、愚かさを突きつけられたたろう



古い慣習から
抜け出せない

【信仰者の敗北】 1コリント6:7~8

そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。どうして、むしろ不正な行いを甘んじて受けないのですか。どうして、むしろ、だまし取られるままではないのですか。

それどころか、あなたがた自身が不正を行い、だまし取っています。しかも、そのようなことを兄弟たちに対してしています。

■ 義人はいない。人間には正義はない。

➔ 自分が絶対に正しいという主張は不正。

➔ 主張の結果得たのは、だまし取ったもの。



常に問われる
自分自身の問題

【当然の前提】 | コリント6:9~10


あなたがたは知らないのですか*。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしめる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。

*反語 → もちろん知らないわけがないですよ。

■パウロが突きつけるのは、当然の事実。

→すべての人は滅びに至る**罪人**である。

■列挙される罪のただ中にコリントの人々もいた。



多様な表現で
突きつけるのは
当然の真理

【位置的真理】 1コリント6:11

あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。

■パウロが繰り返し思い起こさせる“**位置的真理**”

→神の目にはすでにそうなっているということ

■“福音を信じたすべての人は、現状どうあろうと、罪ゆるされたきよい者、神の聖なる民とされ、義と認められ、**永遠の命**が約束されている。”



“救いの大前提”

永遠の命とは
永遠の救い



Ⅱ. 性的放縱 I コリント6章12～20節

【真実の支配と自由】 1コリント6:12

「すべてのことが私には許されている」と言いますが、すべてが益になるわけではありません。

「すべてのことが私には許されている」と言いますが、私はどんなことにも支配されはしません。

* 出所不明。ギリシャの自由民の賢者の言葉？

■ “精神は肉体に支配されないから、何をしようと精神が汚されることはない。”

→ 実際には、罪と欲望に支配されていた。

真実の自由は、主イエスに従う者にある



【よみがえりの主】 | コリント6:13~14

「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある*」
と言いますが、神は、そのどちらも滅ぼされます。
からだは淫らな行いのためではなく、主のためにあり、
主はからだのためにおられるのです。

神は主をよみがえらせましたが、その御力によって
私たちも、よみがえらせてくださいます。

*出所不明。欲望を正当化するギリシャの諺か。

➡吐くまで食べ、酩酊する宴会はギリシャの日常。

■少年への性愛、娼婦との性行は、ソクラテスすら
当然に行っていた、ギリシャで日常的行為だった。



【キリストのからだの一部】 1コリント6:15

あなたがたは知らないのですか(反語)。あなたがたのからだはキリストのからだの一部なのです。それなのに、キリストのからだの一部を取って、遊女のからだの一部とするのですか。そんなことがあってはなりません。

■ 娼婦との性交は当然のこととされていた。

* ここでも、パウロが突きつけるのは位置的真理

■ 福音を信じた者は、キリストのからだの一部。

→ 真実の姿にふさわしく、変えられていくべき。



【究極の一体化】 | コリント6:16~17

それとも、あなたがたは知らないのですか(反語)。
遊女と交わる者は、彼女と一つのからだになります。
「ふたりは一体となる*」とされているからです。
しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になるのです。

*主イエスが告げた結婚の法則。(創2:24,マタ19:5)

*救いの真理。主との信仰の交わりは、主との一体化。

■結婚は、精神、肉体、人格すべてにおける結びつき。
体だけの関係など、創造主の秩序の範囲外のこと。

→究極の結婚は、信者のキリストとの結婚。



【淫行は自らの体に対する罪】 1コリント6:18

淫らな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、淫らなことを行う者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。

■淫行は、自分自身の体を汚す重大な罪。

ロマ1:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。…。1:28 また、彼らは神を知ることに価値を認めなかったので、神は彼らが無価値な思いに引き渡されました。

➔淫行の行く末は、欲望のままの滅びの世界。



【聖霊の宮なるからだ】 1コリント6:19~20

あなたがたは知らないのですか(反語)。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた**聖霊の宮**であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

- 福音を信じた人は、**聖霊が住まわれる神の宮**とされている。主の宮であるからだをきよめ、保っていく責務が、一人一人に与えられている。





Ⅲ. まとめと適用

信者のすべてにすでに起こった
位置的真理を確認しよう

「あなたがたは知らないのですか」

【6章でパウロが確認している、すべての信仰者の位置的真理】

- 聖徒たちは、**世界と御使いをも裁く**ようになる。
- かつては滅びゆく罪人だったが、主イエス・キリストの御名を信じる信仰によって聖なる者とされ、**義と認められた**。
- 信者の体は、**キリストの体の一部**となっている。
- 主を信じ、主と交わり、**主と一体**となっている。
- キリストが代価を払って買い取られ、**神の宮**とされている。

これらはすべて、神の目にすでになっている否定できない事実

【位置的真理を自分自身の真実とするために】

- 主の目にはすでにになっている。 → 自分にはとてもそうは思えない。
主の目に見えるのは栄化された私たち。 → 現実には聖化の途上。
すでに、と、**いまだに**。その狭間にいるのが私たち。

- 何より求められるのは、**聖書を正しく学び続ける**こと。
聖書全体から、変わらぬ救いの原則を学び続けていこう。

- **日々の適用の、失敗と成功の繰り返しから身をもって学ぼう。**
打ち砕かれては、立ち返り、変わらぬ神の恵みを味わい知る。

【裁きを主にゆだね、主のゆるしを味わい知ろう】

- 聖書が求めるゆるしとは、**神の公正な裁き**にすべて委ねること。
- 地域教会が罪を犯した信者に促せられるのは、自発的な悔い改め。拒み通した者を手放し、主に完全に委ねるのが懲戒の最終段階。
- 主を信頼する者に、主は**平安**をもって応えられる。→**ゆるしの実**。その人や出来事を本当にゆるしたなら、必ず平安が与えられる。ゆるされた恵みをもって、御名によってゆるし、平安の実を結ぼう。

人はただ、主を信じて救われ、主を信頼して平安を得る

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

わたしは、罪ゆるされ、主の目に義と認められました。

わたしの内に聖霊が住まわれ、神の宮とされました。

わたしは、キリストの体の一部とされました。

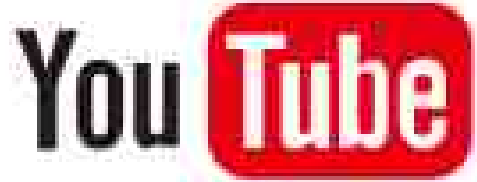
わたしは、主と交わり、一体となりました。

わたしは、来るべき神の国で栄光の姿に変えられ、

主と共に御国を治め、天使すらさばく者とされます。

途方もないこの恵みを確信させてください。ありがとうございます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年11月9日(火) 午前10時より

「コリント人への手紙第一 7章」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時10分くらいから、分かち合いの時間をもちます。

★今後の予定：11/9(火)、11/23(火)、